



ベトナムを走る日本製バイク

北陸銀行 国際部
ホーチミン駐在員事務所
トレーニー 宮本 健史

1. はじめに

「ベトナムといえばバイクの国」というイメージを持って、今回初めて訪れました。実際、街には予想以上の数のバイクが走っており、クラクションが常にどこかで鳴っていました。最初は煩わしく感じましたが、一週間もすると慣れてしまいました。

今回は、ベトナム人にとって「生活の足」ともいえるバイク事情についてご紹介します。



【ホーチミン市内の様子(筆者撮影)】

2. ベトナムと日本のバイクの違い

ベトナムでは2人乗りのバイクを多く見かけます。カップルで、または一家全員で1台のバイクに乗ることもあり、移動手段はバイクが主流となっています。道路が混雑しているため、バイクをタクシーとして利用するバイクタクシーも頻繁に走っています。

50ccの原付や大型バイクは街中でほとんど見られず、日本でいう原付二種(50cc~150cc)をよく見かけます。2人乗りを前提としながらも、街中を走る際に小回りが利く大きさのバイクが適しているのでしょうか。

3. 街中の日本製バイク

ホーチミン市内を歩いていると、「HONDA」や「YAMAHA」のバイクを多くみかけます。初めは日本人なので自国メーカーのバイクが気になるのかと思いましたが、実際に歩いている際も、信号待ちの際も、やはり日本メーカーのバイクが目に入る状況でした。そこで、ベトナム国内のバイクメーカーのシェアについて、調査してみました。

調査方法としては、街中で見かけるバイクをカウントし、メーカーを記録しました。延べ4,410台について調べ、下表の結果となりました。(表中のメーカー欄「その他」には、メーカー不明のバイクも含まれます。)

メーカー	台数	シェア
HONDA(日本)	3,582	81.2%
YAMAHA(日本)	552	12.5%
SYM(台湾)	83	1.9%
PIAGGIO(イタリア)	56	1.3%
SUZUKI(日本)	40	0.9%
VinFast(ベトナム)	39	0.9%
その他	58	1.3%
総数	4,410	100%

※調査方法:

2024年12月2日～11日の日中と夕方、ホーチミン1区・3区・ビンタン区、駐車場・店先に停車中のバイクを調査対象として徒歩にて計数

結果として、圧倒的にHONDA製のバイクが多いことが分かりました。その後詳細なデータを調べると、2022年のベトナム国内での二輪車販売台数は、300万台中、HONDA Vietnamが80.2%の240万7,000台とトップ※であったことが分かり、私の街中での調査結果が概ね販売台数の割合と合致していることが確認できました。

※JETROレポートより

4. 今後の動き

ベトナムのバイク事情は転換期を迎えつつあります。その一例が「電動バイク」の普及です。環境負荷の小さい電動バイクが各メーカーから投入されており、特にベトナム企業のVinFastは、2022年以降ガソリン車の製造を中止し、電気自動車と電動バイクのみを生産しています。また、現在ベトナム国内トップシェアのHONDAは、2025年3月に新たな電動バイクを販売する予定です。

今後、電動バイクの普及が進むことで、バイク事情が大きく変化する可能性があります。

【VinFastの電動バイクタクシー(筆者撮影)】



5. おわりに

喧噪の中、途切れることのないバイクの往来を眺めていると、異国情緒を感じられます。今後、地下鉄の開業や電気バイクの普及などで環境は日々変化していくと思われませんが、多くのバイクがクラクションを鳴らしながら走る今の情景をいつまでも見ていたい気持ちになりました。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp